Essay エッセイ

たむら・やすのり／國學院大學文学部神道学科卒業後、明治神宮奉職。先代宮司急逝を受け1998年から現職。秋田高校同窓会監事、太平山県立自然公園協議会委員ほか、秋田高校PTA会長、神道青年全国協議会副会長、秋田ロータリークラブ会長等を歴任。

♪天上はるかに

# 太平山について

太平山三吉神社宮司　田村 泰教（昭和59卒）

## ◇太平山登山

昭和58年秋、息も絶え絶え、苦悶（くもん）の表情を浮かべる友人を励ましながら登った岩見三内コース。山頂まで標高差1100メートル、距離約5キロメートル。運動部経験のない彼はよく登り切ったものだと、今つくづく思う。

昭和41年から約30年間行われた太平山登山は、該当年代の同窓が世代を超えて共有する（苦しい？）思い出の一つ。私の在校中は、一般的な旭又（仁別）口のほか、前述の岩見三内と太平野田の三つの登山道を使用し隔年開催されていた。しかし、週休2日制導入等の理由で平成6年を最後に中止となった。

## ◇28年ぶりの学校登山

「天上はるかに太平山の　姿はけだかし三千余尺～」。昨年9月30日、これ以上ない秋晴れのもと、創立150周年のプレイベントとして、実に28年ぶりの学校登山が実施され、1・2年生約200人の歌声が山頂に木霊（こだま）した。

事故が起きれば学校側が責任を問われる時代。まして幼少の頃から快適な環境に身を置く現代の高校生が、厳しい登山に耐えられる気力・体力を持ち合わせているか？不安要素も多い中で、開催を決断された柘植敏朗校長先生以下関係者の思いが実った瞬間に立ち会えたのは実に幸運だった。仲間と共に絶景を堪能し、達成感を共有できた生徒たちにとっても、忘れ難い青春の貴重な1ページとなったに違いない。

太平山頂上

## ◇太平山の概要

太平山は標高1170メートル、秋田県のほぼ中央にそびえ、秋田市と北秋田市の境界にあたる。その峰は前岳まで蛇のように西に延び、旭川や太平川などの源流ともなっている。天然の秋田杉やブナ林、御手洗の湧き水など手付かずの自然が残り、清浄な気に包まれる山頂では、県内を一望できる360度のパノラマが広がる。いにしえより薬師の峰、神霊が宿る修験の山、また秋田市のシンボルとして親しまれ、「三百名山」「新日本百名山」として県内外より登山者を迎えている。以前には元プロサッカー選手で実業家の中田英寿さんをご案内したこともある。

## ◇天職いかに

頂上には当社の奥宮と山小屋があり、私も夏季期間中は、合わせて1カ月ほど山頂勤務に就いている。発電機が止まる夜は漆黒の闇に恐れを感じ、夜空に浮かび上がる天の川や東の山々から昇るご来光に息をのむこともあれば、小屋からわずか10メートルのトイレへ行くことさえも危険な暴風雨の日もある。人知を超えた自然の営みの中で、われわれは無力であり、人間の存在は小さいことを感じる日々。

しかし、そんな中でも山小屋は登山者の道しるべとなり、神社は多くの人々の心のよりどころとなっている。

登山は、山あり谷ありの人生になぞらえられることも多く、困難を乗り越えた後の充実感や清涼感は格別。また「最高の有酸素運動」として、中高年をはじめその魅力に目覚めた若い登山者も増えている。

故山の伝統や歴史・信仰を守り、次の世代に引き継いでいくこと。それが祖父から愚息まで4代に亘り薫陶いただいた母校への、わずかな恩返しにもなるかと思っている。

同窓の皆さんの太平山登山チャレンジをお待ちしております!!

28年ぶりの太平山学校登山